

川崎市国際交流協会会長賞受賞作品

「私の将来の夢と川崎市」

中原小学校 5年生 伊藤 怜美

私の将来の夢は医者になることです。そのように思ったきっかけは、母が経験したことを小さいときよく聴いていたからです。私の母はフィリピンのミンダナオ島というところの出身です。その地域はとても貧しく、内戦がひんぱんに起こっていました。戦いがはげしく、自宅の前に川が流れているのですが、毎日のように死体が浮いていたとのこと。そこで、母は看護師として、内戦で傷ついた兵士の銃の弾を取り出す手術を医者と共にやり、命を救ってきました。

また、驚いたことには、フィリピンの一部の地域はとても貧しく、医者にかかることのできない妊婦さんが多いとのこと。そこで、私の母は、医者にかかるお金がない妊婦さんのために、赤ちゃんの出産の手助けをしていたそうです。そこで、私が調べたところ、貧しさのため、命の危険のある妊婦さんが多いです。

私の母方の祖父は、フィリピン人です。祖父のことをタカログ語で「ロロ」といいます。私はロロが大好きでした。一年に一回ほどしかフィリピンに住んでいるロロに会いにいけませんでした。行ったときはいつもお人形をくれたり、言葉をわかりやすく教えてくれたりしました。特に印象に残っているのは、私の好きなフィリピンのやわらかいバナナを買ってくれたことです。フィリピンのバナナは日本のバナナよりも私にとってはすごく甘いのです。しかしロロは、突然天国に行ってしまいました。私が感じたことは、フィリピンと日本の医療の違いでした。家族の死に直面して、「死」をまの当たりにし、命の大切さを心から感じました。

私は川崎市で生まれました。私が生まれる前は、母は切迫早産の危険があり、救急で入院したそうです。日本の最新の医学とお医者さんの力のおかげで、私は無事に生まてれたとのこと。日本の医学のすごさに、私は感謝しています。

時々、母のフィリピンにある実家にいく機会があります。まず、見ておどろいたのは、下水道から水があふれ出ていて、その近くに人が住んでいて、またその近くに豪華な家が建っているなど、貧しさと豊かさの差が大きいと感じました。また、路上に住んでいる人も多く、家や家族のいない子供たちをたくさん見ました。そこで、辛い思いをして生活している現実が目にしみこみました。私の住んでいる川崎市はとても発展していると感じます。また、私の母のように、外国から来日した人が多い都市です。そのため、豊かな川崎市に住んでいても、病気になり、言葉の壁や経済的な問題からきちんとした医療にかかることができない人がいると聞いています。そのため、病気の発見が遅れ、取り返しのつかない段階におちいってしまう人もいます。

私は、今、中原区の小学校での勉強に加わえて、英語とフィリピンの言葉である

タカログ語の勉強をしています。将来は、医者になり、川崎市で経済的困難に直面している人や言葉の壁から、病院に行けない人のために役立ちたいと強く願っています。また、私の母が生まれたフィリピンでボランティアで医療活動をし、特に、貧しい子供たちのために、役に立ちたいです。医療を元に、川崎市に住む色々な国から来る人々と日本の人々の共生のため、役にたつ医者になりたいです。これが、私の川崎での夢です。